

## 第47回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に参加

フローレンス・ナイチンゲール記章は、赤十字国際会議で決定しナイチンゲールの生誕100周年を記念して1920年に第1回の記章が授与され、その後2年に一度授与されています。

受章資格は、平時または戦時において、傷病者、障がい者または紛争や災害の犠牲者に対して偉大な勇気を持って献身的な活動をした者や、公衆衛生や看護教育の分野で顕著な活動あるいは創造的・先駆的貢献を果たした看護師や篤志看護補助者となっています。



8月7日、東京で第47回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式が開催され、日本赤十字社の名誉総裁を務める皇后さまをはじめ、名誉副総裁の女性の皇族方も出席されました。その授与式に、学生3名と教員1名が参列させていただきました。会場内を同じ赤十字看護専門学校の学生たちがキャンドルサービスをして回り、厳かな雰囲気の中で執り行われました。授与式では、皇后・雅子さまから受章者2人にナイチンゲールの肖像をかたどった記章が贈られました。その後、受章者の方々の講演会にも参加させていただきました。参加者にとっては、一生忘れられない貴重な体験となりました。



## 第47回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に参加

第47回フローレンス・ナイチンゲール記章の受章者は、世界19カ国29名で、日本からは竹下喜久子さん(69)と秋山正子さん(68)の2名でした。

竹下さんは、国内外の災害救護活動への画期的な取り組み及び医療施設の看護師への実践教育などの功績が認められました。秋山さんはがん患者への訪問看護実践の経験から地域住民が誰でも、いつでも気軽に利用・相談できる環境整備、地域の保健活動の先駆性が認められての受章でした。





## 第47回フローレンス・ナイチンゲール記章授与式に参加



私は8月7日のナイチンゲール授与式と式典後の受章者の方々の講演会に参加させていただきました。秋山さん、竹下さん、お二人とも自身の看護に信念を持ち、自分一人ではこの功績は果たせなかったと周りへの深い感謝の気持ちを持ち、常に患者のことを考え、学ぶことを怠らない姿に感銘を受けました。私もこのお二人のように、患者に今何が必要かを自らが常に考え、誠実に行動していこうと思いました。このような貴重な機会を与えていただきありがとうございます。  
A子

ナイチンゲール記章授与式への参加のお話を先生から伺った際、きっとこのような経験をする機会は今後得られないと思いすぐに参加を決めました。皇后陛下・雅子さまが赤十字名誉総裁になられて初めてという記念すべき回に参加させていただけたことを大変光栄に思います。後ろの席ではありましたが、式典中何度も雅子さまが微笑みながら頷くご様子をしっかりと拝見することができました。

式典後の講演会では、今後超高齢化が進んでいく中で欠かすことのできない在宅看護の分野で20年以上ご尽力されている秋山さんのお話はとても貴重なものでした。赤十字の養成所を卒業してから長きに渡り赤十字の一員として国内外でご活躍された竹下さんのお話もとても心揺さぶられるものでした。非常に学ぶことに貪欲で、学ぶ環境や支えている周りの人への感謝を常に持っておいるお人柄にとっても魅力を感じました。私も赤十字看護師になりたいと思い本校に入学しましたが、赤十字を選んだことは間違いではなかった、竹下さんのような人道、博愛の精神を大切に続けられる看護師であり続けたいと思いました。

このような貴重な経験をさせていただいたことに感謝の気持ちでいっぱいです。これからも今できることを精一杯やり、看護の勉強だけでなく人としても成長していきたいと思います。  
B子